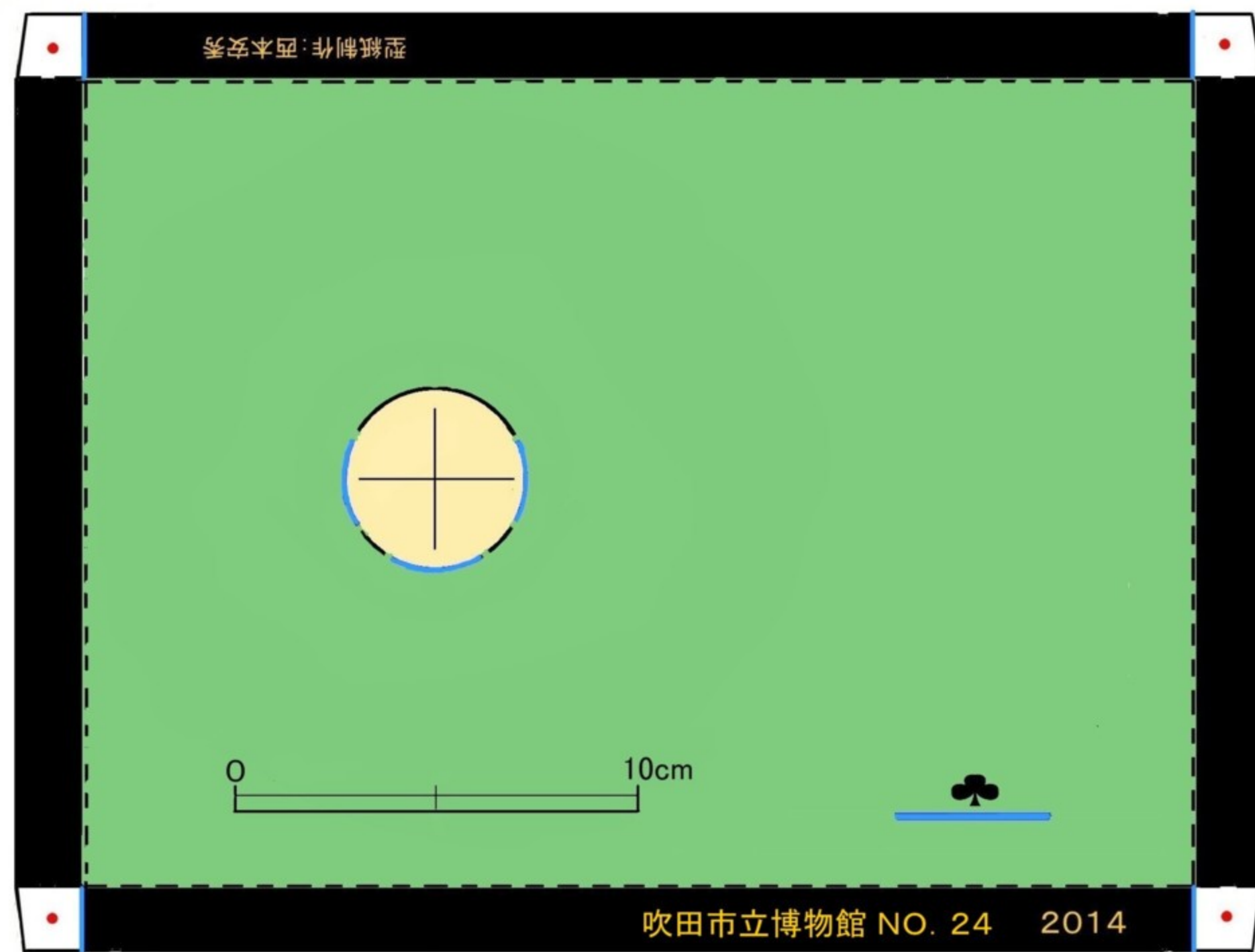


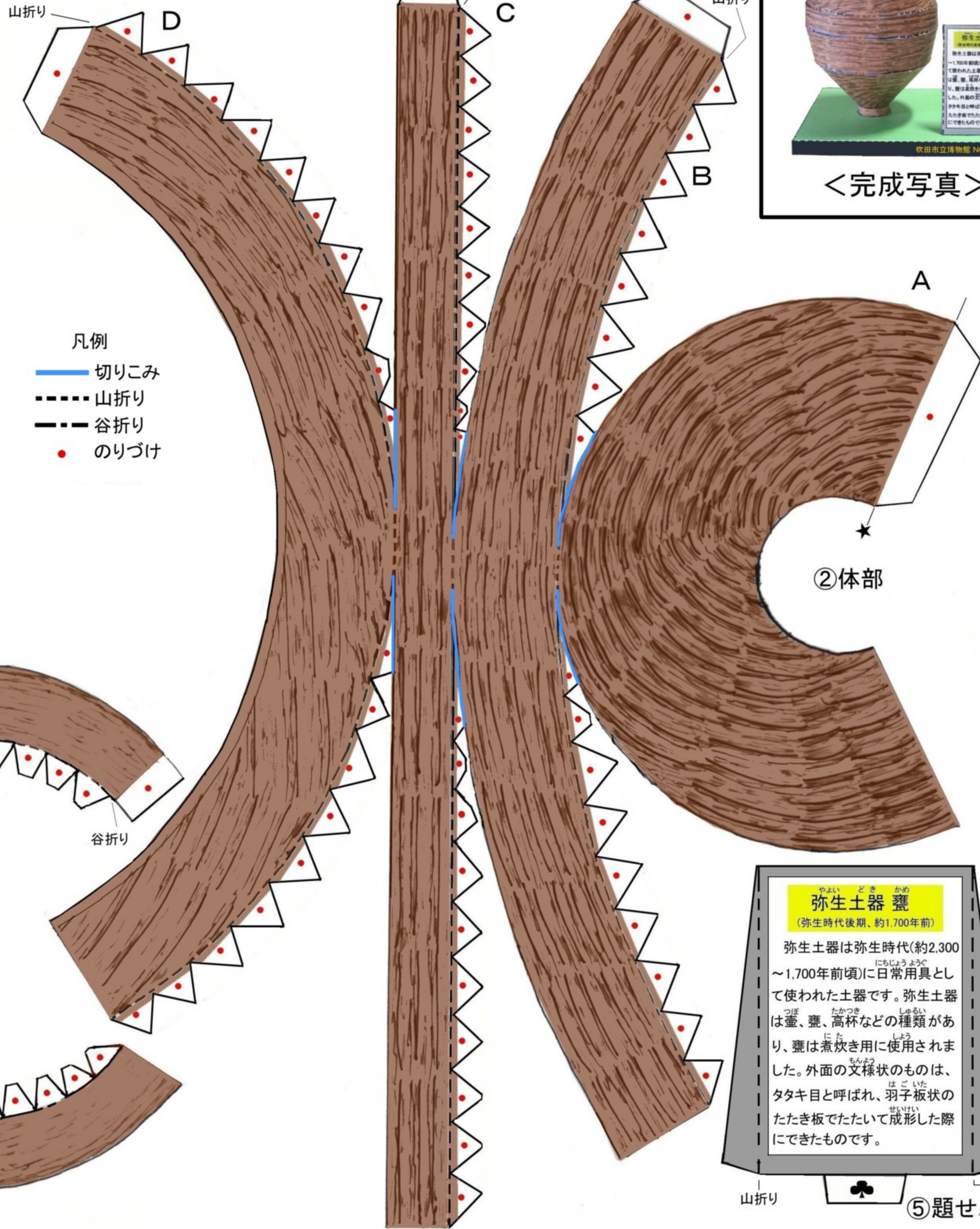
やよい とき かめ
弥生土器 甕 パーパークラフト

吹田市立博物館 NO.24 2014

型紙制作: 西本安秀



①土台

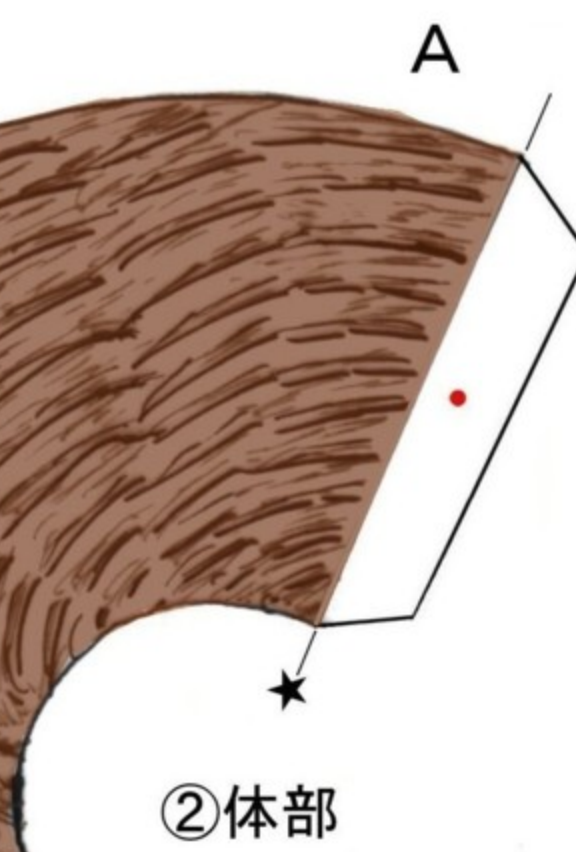


凡例

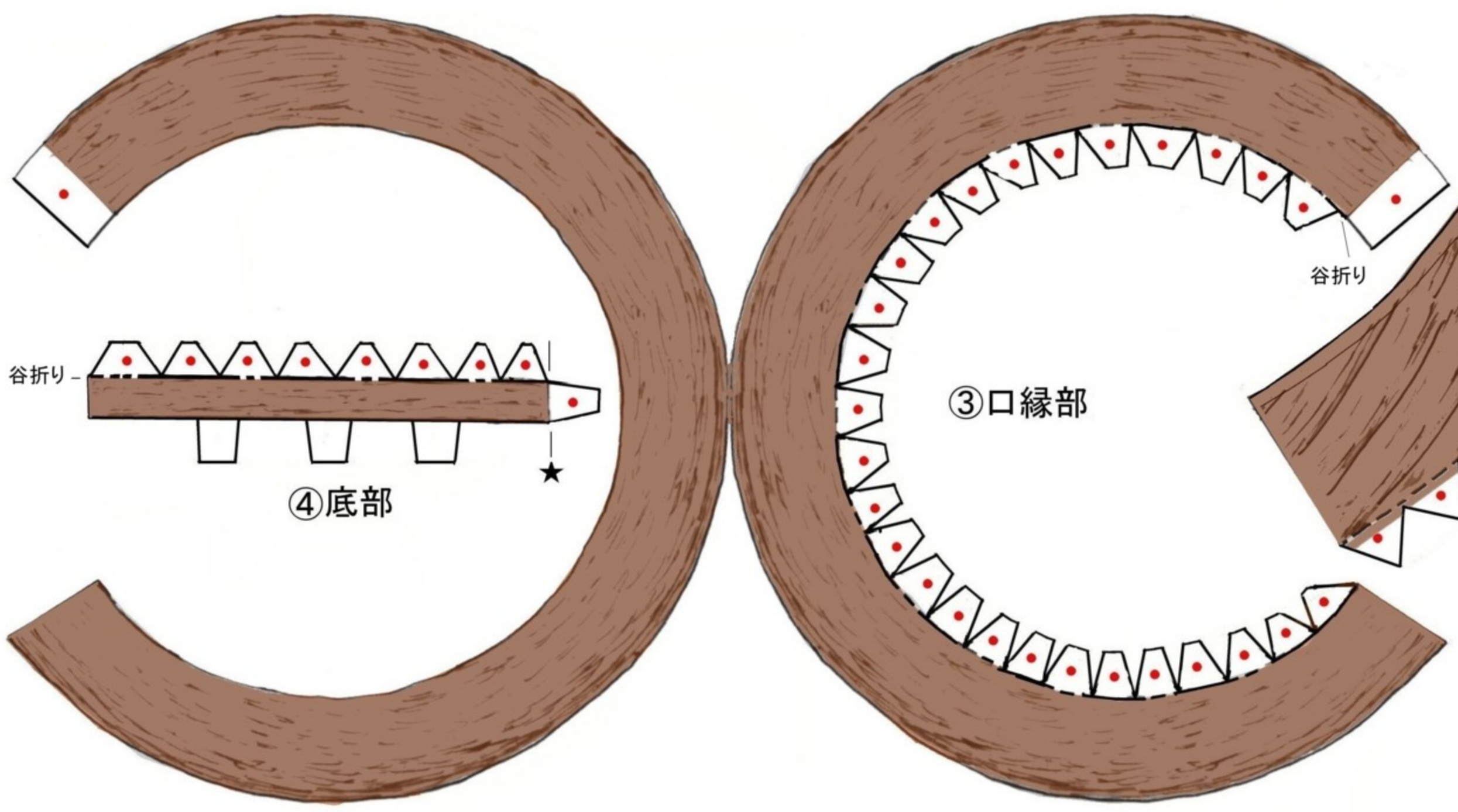
- 切りこみ
- - - 山折り
- 谷折り
- のりづけ



<完成写真>



②体部



③口縁部

④底部

やよい とき かめ
弥生土器 甕
(弥生時代後期、約1,700年前)

弥生土器は弥生時代(約2,300～1,700年前頃)に日常用具として使われた土器です。弥生土器は壺、甕、高杯などの種類があり、甕は煮炊き用に使用されました。外面の文様状のものは、タタキ目と呼ばれ、羽子板状のたたき板でたたいて成形した際にできたものです。



⑤題せん

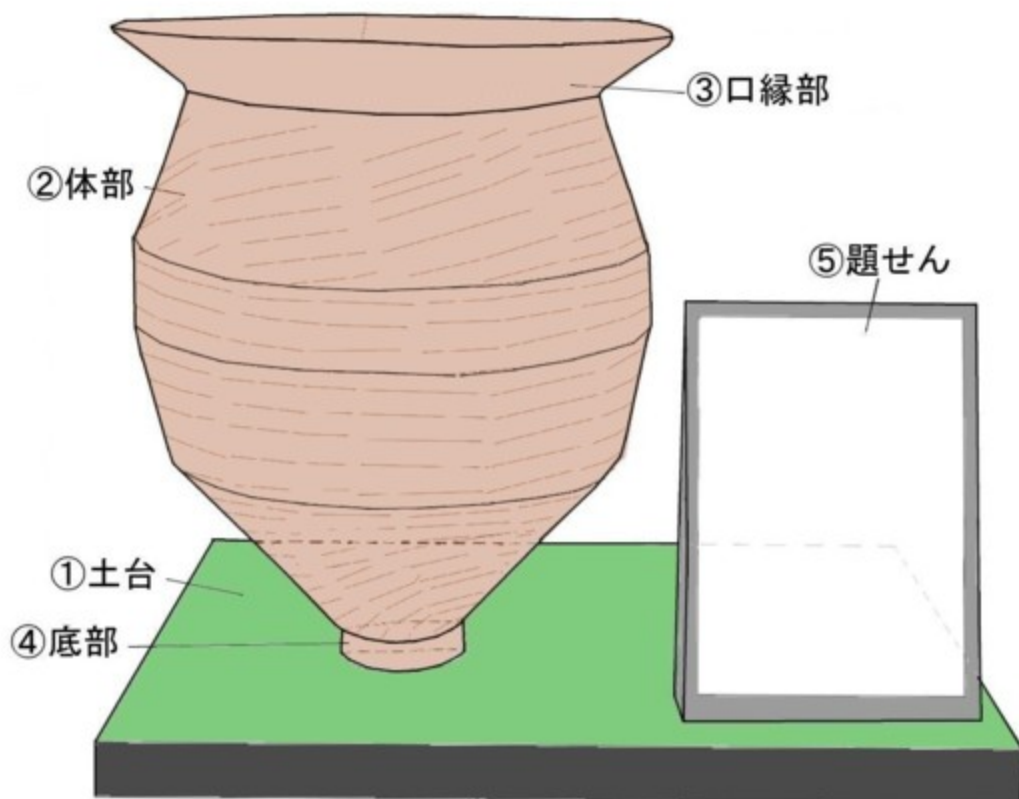
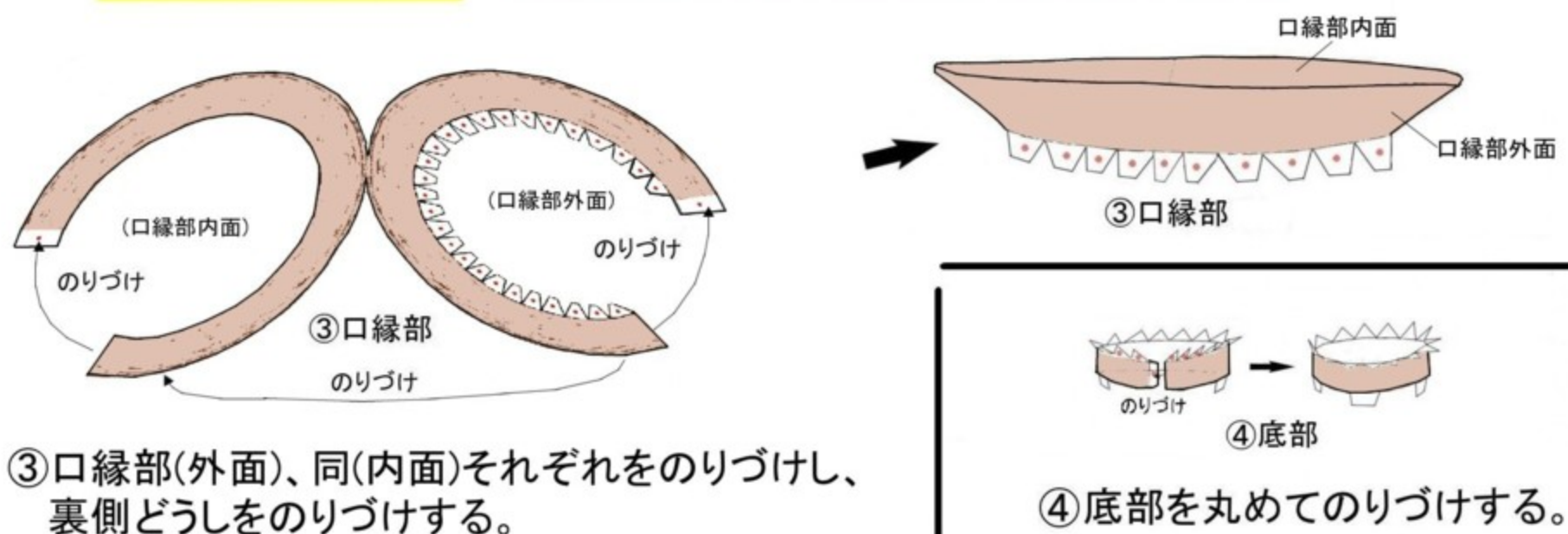
『弥生土器 甕』の組み立て方

吹田市立博物館 NO.24

型紙制作: 西本安秀

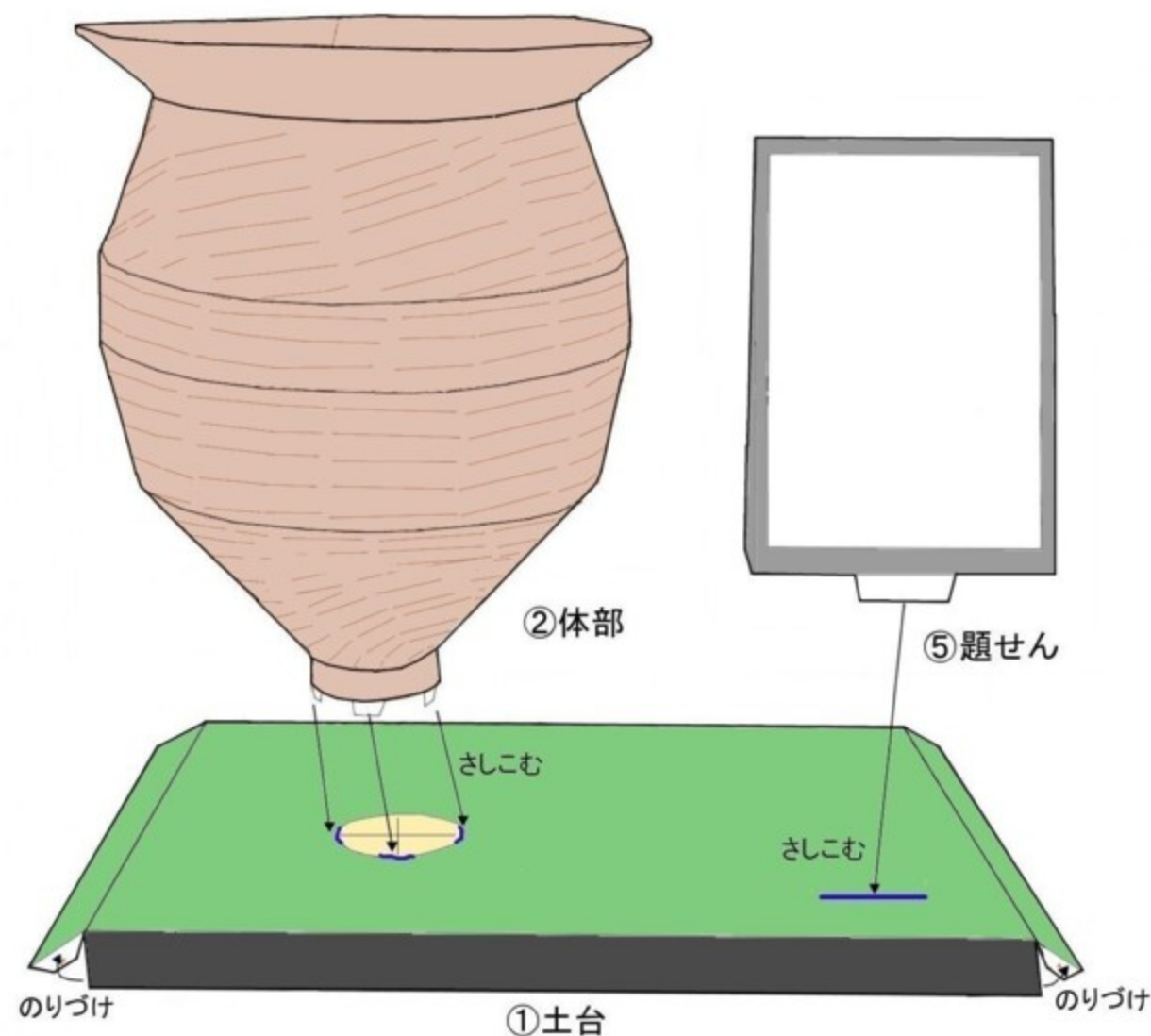
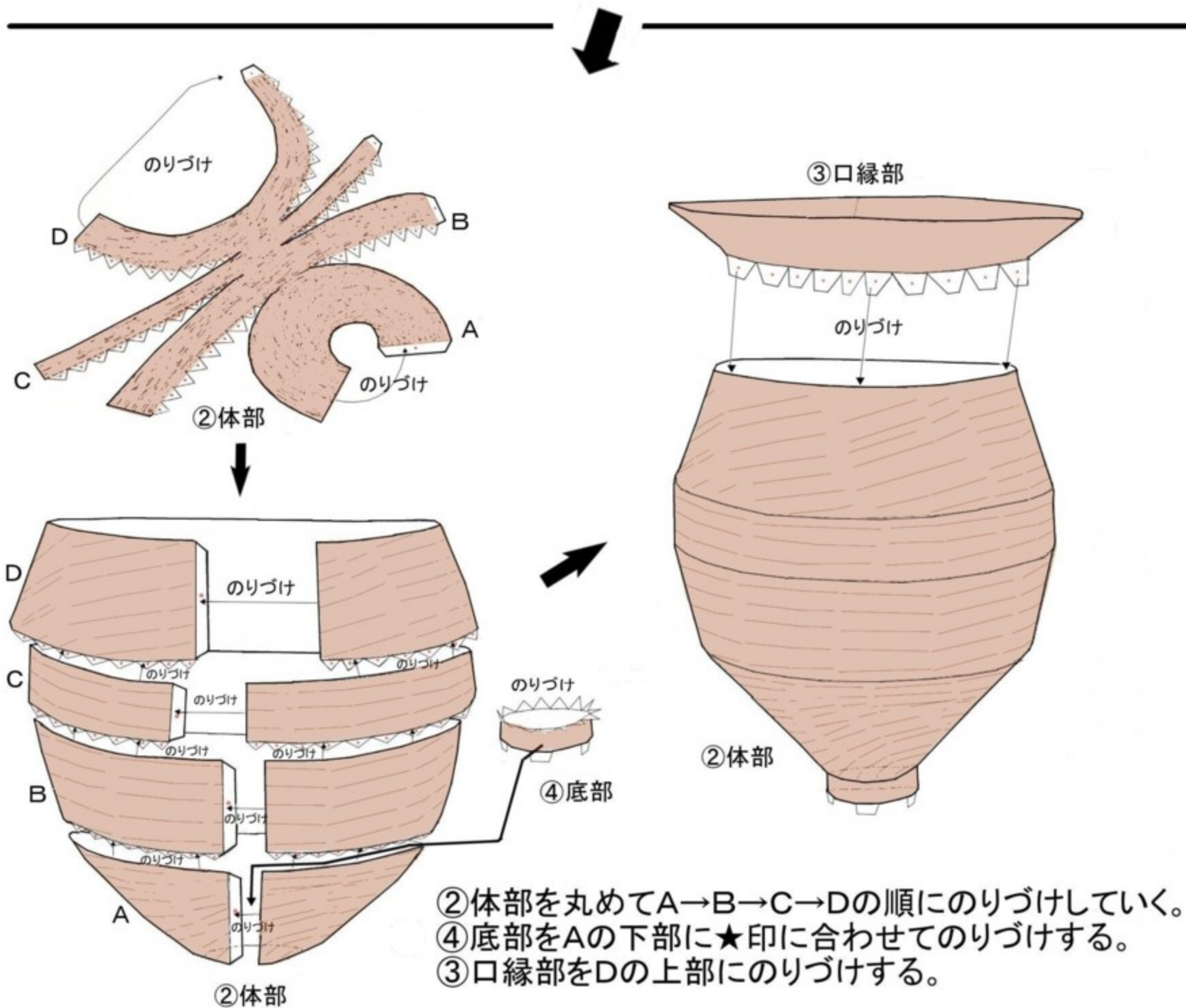
1 部品を作る

* 各部品に切りこみを入れてからきりぬく。



<組み立て完成図>

2 部品を組み立てる



①土台を組み立て、②体部、⑥題せんを差し込んで完成。